Economic Indicators

発表日:2019 年 11 月 20 日(水)

貿易統計(2019 年 10 月)

～貿易収支(季調値)は改善も、内容は良くない～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
18年	9月	1,241	▲ 1,778	▲ 1.4	7.1	▲ 5.0	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 4.7	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 8.2	▲ 1.8
	10月	▲ 4,563	▲ 3,941	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.6	12.4
	11月	▲ 7,391	▲ 3,895	0.1	12.5	▲ 1.9	1.8	6.2	▲ 4.5	4.2	▲ 2.7	9.2	3.4
	12月	▲ 557	▲ 2,046	▲ 3.9	1.9	▲ 5.8	3.9	5.7	▲ 10.4	▲ 2.2	11.5	▲ 4.0	▲ 2.4
19年	1月	▲ 14,177	▲ 3,041	▲ 8.4	▲ 0.8	▲ 9.1	10.2	▲ 1.5	▲ 14.3	0.5	11.4	▲ 3.6	3.7
	2月	3,316	131	▲ 1.2	▲ 6.5	▲ 0.7	4.1	4.6	▲ 1.2	▲ 6.5	5.7	▲ 1.2	▲ 10.8
	3月	5,227	▲ 2,008	▲ 2.4	1.2	▲ 5.7	0.3	4.7	▲ 8.0	0.4	▲ 3.1	▲ 10.7	5.5
	4月	535	▲ 1,510	▲ 2.4	6.5	▲ 4.3	5.1	▲ 2.9	▲ 3.4	4.1	1.4	5.6	3.4
	5月	▲ 9,702	▲ 5,206	▲ 7.8	▲ 1.4	▲ 9.0	▲ 1.0	▲ 8.0	▲ 11.7	▲ 1.2	5.5	10.8	▲ 2.9
	6月	5,875	▲ 187	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 5.6	2.9	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 3.2	2.8	▲ 6.9	▲ 3.8
	7月	▲ 2,523	▲ 1,204	▲ 1.5	▲ 1.1	1.7	10.0	4.6	▲ 4.6	6.6	9.5	1.4	8.4
	8月	▲ 1,457	▲ 991	▲ 8.2	▲ 11.9	▲ 6.0	▲ 3.5	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 6.0	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 4.2
	9月	▲ 1,248	▲ 643	▲ 5.2	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 4.0	0.2	▲ 6.0	6.8	▲ 1.0	8.7	8.1
	10月	173	▲ 347	▲ 9.2	▲ 14.8	▲ 4.4	▲ 6.6	▲ 7.5	▲ 7.1	▲ 6.1	▲ 7.7	▲ 11.3	▲ 7.0

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支（季節調整値）は赤字幅を縮小

10 月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は＋173 億円の黒字（コンセンサス：＋2,831 億円、レンジ：▲2,871～＋6,301 億円）とコンセンサスを下回る結果となった。

輸出金額については、前年比▲9.2%（コンセンサス：▲7.5%、レンジ：▲9.4%～▲1.6%）となった。輸入金額についても同▲14.8%と減少(コンセンサス：▲15.2%、レンジ：▲22.2%～▲8.5%)した。原油価格の下落や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が輸入を押し下げたようだ。また、台風 19 号により一部の港湾施設が被災したことも、輸出・輸入の減少に影響を与えた可能性がある。季節調整値では、輸出金額が前月比▲1.7%、輸入金額が同▲2.2%となり、貿易収支は▲347 億円と前月から赤字幅を縮小した。

○ＩＴ関連財に下げ止まりの動き

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲1.0%（９月：同＋0.9%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と前月からマイナスに転じた。

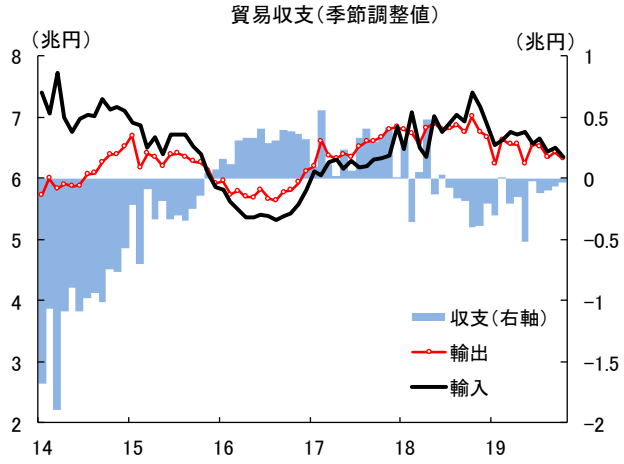
米国で製造業を中心に企業活動に弱い動きがみられ、中国でも外需・内需ともに弱含む展開が続くなど、海外経済は全体として弱い動きとなっており、輸出環境は依然として厳しい状況が続いている。一方で、ＩＴ関連財については下げ止まりの動きが見えつつある。半導体等電子部品（対全世界通関輸出）の前年比伸び率は２か月連続でプラスとなっており、これまで弱い動きが続いてきたＩＴ関連財だが、今後は持ち直しの動きが期待される。

米中貿易摩擦については、部分合意への期待感が高まっている。来年に大統領選を控える米国と、成長率６％割れが迫る中国は、共に部分合意によって突破口を見出したいという誘因が増大しており、

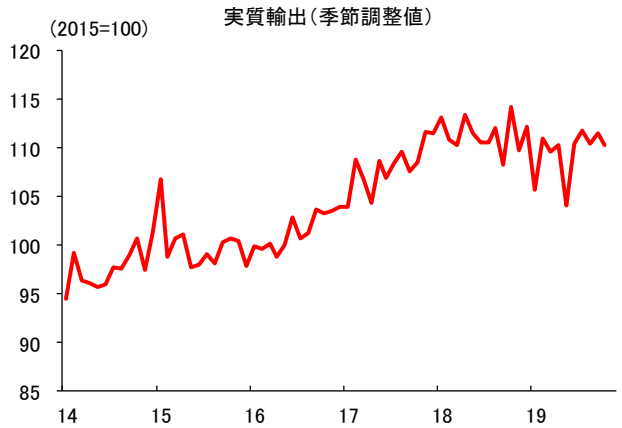
関税の一部撤廃が実現される場合には、輸出にポジティブに働くことになるだろう。一方で、トランプ大統領は、中国が合意しなければ関税を大幅に引き上げるとも発言しており、リスクは上下方向に存在していることから、部分合意についての楽観視は時期尚早であり、今後の展開を注視する必要があるだろう。

○実質輸出（米国向け）は４か月連続の減少

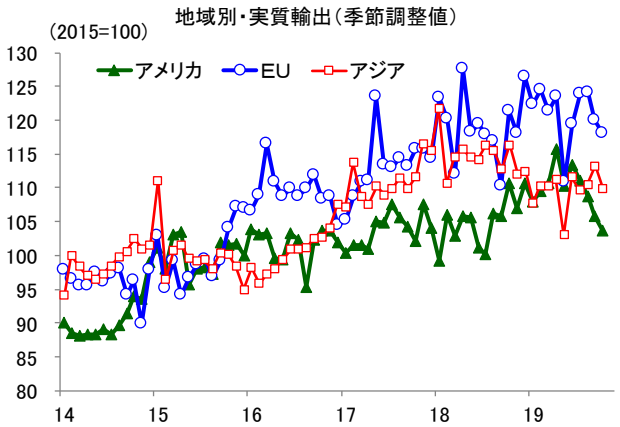
実質輸出を国別に見ると、米国向けが前月比▲2.0％と４ヶ月連続で減少した。米国向けでは、金属・同製品（同▲7.1％）や電気機器（同▲4.4％）、輸送用機器（同▲2.7％）など、幅広い項目での減少がみられた。ＩＳＭ製造業景況指数が３か月連続で好不調の節目とされる 50 を下回るなど、米国の景況感は弱い動きをみせており、企業活動の停滞を通じた設備投資意欲の減退等が対米輸出の落ち込みに繋がっているものとみられる。中国向けついては前月比▲1.7％とマイナスになったものの、先月大きく増加した化学製品の反動減（９月：同＋6.7％→10 月：同▲4.8％）の影響が大きい。今後中国向け輸出は中国経済の減速と足並みを揃える形で弱い動きが続くことが想定されるが、大きく崩れる展開となる可能性は低いだろう。



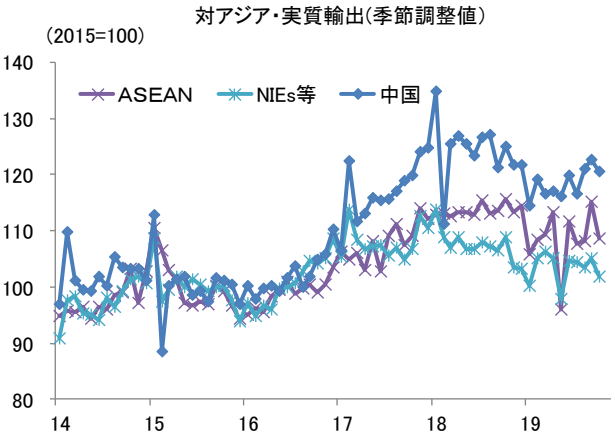
（出所）財務省



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省、日本銀行
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。